



Title	河本敦夫先生を悼む　弔辞
Author(s)	金田, 民夫
Citation	デザイン理論. 1987, 26, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/52688">https://doi.org/10.18910/52688</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 弔辭

長い病床の生活に疲れはてて、貴方は遂に逝かれました。黙って、静かに、日頃の御性格のままに、人知れず息を引取られたことと思います。世俗的なものへの関心も野心もなく、ただ一途に学究の道を歩んで来られた貴方は、いつも私の五、六歩前に立って、おだやかに私を振り返って下さいました。

戦争末期に出版されました最初の御著書「日本文藝史論」を、署名入りで載いて以来、河本さんとは随分長いお付きでした。その間、色々と相談に乗っていただきたり、助言を賜ったり、個人的にもお世話になりました。『世界美術史』の次に「西洋美術史」を出版する際には、河本さんの全面的な協力なしには不可能であったと申さねばなりません。

戦後の全国的な研究組織として、「美学会」が結成されました時には、発足の当初から、長期にわたって学会運営の委員として、活躍されました。勿論、大言壯語されるようなこともなく、学会の円満な発展と後輩の指導に、力を尽されました。現代藝術の研究に及ぶ幅広い貴方のご研究は、日本の美学界に大きな足跡を残されたものと思います。

思い出は、語れば尽せない程でございますが、今私の眼前に浮ぶのは、大学まで歩いて行くのだと言って、急ぐでもなく、ゆっくりでもなく、超然として歩いて居られた貴方のお姿です。どうか、心ゆくまでお休み下さい。

拙い言葉ですが、先輩の御冥福をお祈りして、弔辞と致します。

昭和62年5月21日

金田民夫